

大災害時 県が活用

地域の災害対策に一層貢献
していく」と話している。

白浜のビジネス拠点

南海トラフ地震などの大規模災害が発生した際、白浜町才野の南紀白浜空港展望広場（空港公園）内にあるビジネス拠点「オフィスクラウドナイン」の会議室などが、県の救助活動現地調整所として優先的に活用

できるようになった。

拠点を運営する総合建設コンサルタンツ会社「オリエンタルコンサルタンツ」（東京都）と建設会社「浅川組」（和歌山市）で構成する共同事業体が22日、県と拠点の利用に関する協定を結んだ。

同拠点は、空港に隣接する高台にあるコワーキングスペースと賃貸オフィスを併設するワーケーション施設で、2022年10月に運営が開始された。屋根には太陽光発電システムを搭載しており、停電時には、発電した電力を情報端末などの充電に活用できる。町が整備・運営する耐災害ネットワーク「ナーブネット」の基地局でもあり、災害時のワイファイ環境維持にも対応している。

共同事業体は「今回の協定締結を機に、県や白浜町との連携をさらに強化し、